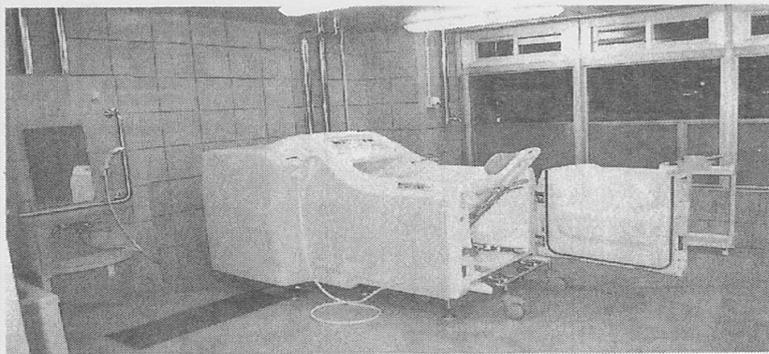


回復期リハビリ病棟拡充

佐原中央病院 来月から38床増



車いす利用者が座ったまま入浴などが可能となった医療器具。佐原中央病院でも新たに導入したという＝28日、香取市佐原口



離床センサーなど最新式の設備などを搭載したベッド。個室を2部屋(2床)、4人部屋は9部屋(36床)増やした

香取・海浜地域で唯一、回復期リハビリテーション病棟(59床)を備えている香取市佐原口の佐原中央病院(秋元富夫院長、179床)で、2月からの運用開始を前に、新たに38床を増床した回復期リハビリ病棟の内覧会が開かれ、地元議員や医療関係者に最新のベッドや入浴設備などが公開された。同病棟の拡充により同病院は全体で217床となる。

同病院の回復期病棟は、もともと3階に設けてあるが、今回、総務などの事務機能があつた2階スペース約900平方メートルも昨年11月から約3カ月間かけて改修し、計97床と増床した。同病棟としては、県内でもトップクラスのベッド数となるという。

これに伴い事務機能などは、2012年11月から昨年10月にかけて建てられた新病棟に移動。改修工事はこの他、1階のリハビリ室などでも行い、新たに畳の和室も設置した。「あえて部屋の入り口部分に段差を設けるなど、バリアフリーにはしないで、患者の退院後の生活に、よりリアルに近づけた」(リハビリ担当者、設計だという。

同病院によると、県内で回復期病棟を持つ病院は35カ所ほどあるが、香取・海浜地域では同病院だけだという。回復期リハビリは、急性期を過ぎた入院患者に在宅復帰を促す役割を担っており、内覧会後の式典で秋元院長(77)は「医療・福祉と地域、行政が協力し、地域に根差した病院として、地域の役に立てれば」とあいさつした。